ハピカム ミライデザイン会議

由布市

地域力

local power

庄内神楽

挾間、庄内、湯布院の３町が合併し、由布市になって10年。魅力的な地域資源を持つ市内にはさまざまなコミュニティーがあり、それぞれ活発に活動している。活動を引っ張る若手リーダー４人が、それぞれの取り組みを共有しながら課題について話し合った。もともと鉄道でつながっていた地域。心の垣根のない関係が、地域の力を次世代へとつないでいく。

ひとつでも３つでもない

活動していたら面白く

渡辺　まずは自己紹介からお願いします。

古長　由布市庄内地域振興課に勤務していて、庄内神楽座長会の事務局をしています。

大谷　ゆふいんまつり実行委員会の実行委員長をしています。ゆふいん温泉まつりだけじゃなく、夏祭りのゆふいん盆地まつり、湯布院映画祭などいろいろやっています。

目原　大分ベンチャーキャピタルは投資などをする会社で、私は農業と６次産業化の担当です。

平岡　挾間町で写真店をしています。由布市商工会の青年部に入って、イベントをしたり地域のボランティアをしたりしてきました。今は10月25日に開く、JR久大線のもとになった大湯鉄道の100周年祭に向けて活動しています。

村田　湯布院町でジャム作りを始めて18年目。県内の農家と契約し、材料を作ってもらっています。

渡辺　この分科会は地域力がテーマ。まず、なぜ今皆さんそこに住んでいて、いろいろな活動をしているのかということからお聞きしたい。

若手リーダー
豊後大正ロマン街道大湯鉄道物語実行委員会幹事長
平岡公寿 さん

平岡　ここで生まれたからでしょうか。大学進学で一度外に出たけど、父が商売をしていて病気をしたのもあって、しょうがなく帰ってきて、訳の分からないうちに商工会青年部に引っ張り込まれて、活動していたら面白くなりました。最初のうちは面倒くさいという思いもあったけど、地域の人が喜んでくれるのを見ると「またやろうか」という気になって、だんだんやりがいが出てきました。先輩たちが活動する姿も見てきたし。

村田　もともと別府市に住んでいて、私が高校に入る時に家族で湯布院に引っ越しました。東京にも出たけど、戻ってきて、親が出資していた会社を継ぎました。両親が湯布院に来た理由を考えると、自然や環境、それに面白い人がいっぱいいる、そういうところに魅せられたのかなと思います。

電車通学で仲良くなる

若手リーダー
庄内神楽座長会事務局
古長寛幸 さん

古長　私は若いころも都会に暮らしたいとはあまり思わなかったですね。平石という、山の上の方の地域に住んでいますが、棚田があるんです。カメラマンが集まるポイントもあります。自分のアイデンティティーじゃないけど、生まれ育った環境がずっとそのままあることに喜びを感じています。

大谷　僕の親戚が電器店をしていて、温泉まつりなどの音響を担当していました。僕は音楽をやっていて音響とかは得意だったので、高校を卒業する時に「手伝ってくれ」と言われて、手伝うことになって二十数年たちました。それから祭りにも関わるようになりました。父は祭り好きだったけど、そういうのが昔は恥ずかしかった。でも今は自分がそうなっています。大人になってからの方が湯布院を好きになったかもしれない。

古長　学生の時は久大線で電車通学をしていました。

大谷　僕も電車通学。帰宅部だったけど電車の中って部活みたいなもので、先輩しか座れない席とか、結構あるんですよね。途中で庄内や挾間の子が乗ってきて仲良くなっていました。

平岡　大湯線には、若い人からお年寄りまでみんな思い出があるから共感が持てる。そういうのを探して100周年祭をやろうとしています。

コミュニティーが融合

渡辺　合併したからどうこうじゃなくて、それ以前から、３町は電車などつながる部分があったんですね。今、若い人は庄内にいますか。

古長　同級生は２割ぐらいが残っていて、他は大分市か県外に出ています。

大谷　挾間に家を買う人もいるよね。

平岡　挾間はそういう意味で、庄内や湯平の人が多く住んでいますね。挾間の同級生は賀来とか南大分とかに出ていく。それぞれ一駅ずつぐらい街に近づく感じです。

若手リーダー
由布院散歩道風曜日代表取締役
村田武 さん

村田　古長さんの住んでいる所の風景のように、そこに上ったら見えるという景色はいっぱいあるし、電車の中も一つのコミュニティーが成立している。住んでいる人それぞれのコミュニティーがあって、それがいろんなところで融合するから地域って面白い。

渡辺　結局、人と人が出会うとか、一緒に何かやろうというところから全てが始まっていくと思います。では、どうやって一緒にやる人を集めていけばいいでしょうか。

平岡　友達をつくるのと同じでしょう。まずは共通点を探して。

村田　巻き込めるか巻き込めないか分からないけど、きっかけはそういうものですよね。

継承が最大のテーマに

渡辺　人口は減っているし高齢化も進んでいるし、自分がやっていることをやる人が少なくなっているという危機感はありますか。

古長　あります。神楽は確実に高齢化しています。子どもたちにも教えているけど、そもそも地域の子どもの数が少ない。伝統文化をどう継承するかは最大のテーマです。

渡辺　目原さんは企業を相手に仕事をしていますが、同じことが言えるのでは。

目原　後継者不足はどこの企業でも言われています。日本全国どこにも人口減少の問題があるので、それを食い止める策を考えることが大事です。人口の絶対数が増えれば、神楽を受け継いでくれる子どもも増えると思う。地域力とは何かと考えたとき、人が減らないための方策、増えるための方策が挙げられると思います。由布市内でもいろいろしているようですね。

平岡　由布市の商工会が合併して２年ぐらいですが、今、青年部がすごく元気がいい。みんなで何か一緒にやろうということになり、婚活イベントをやることになりました。挾間の商工会青年部は今26人。10年ぐらい前は十数人で、その頃ははさま花火大会の協賛もすごく落ちて、「やめようか」という話も出ました。でも「やめるにしても最後は派手にやろう」と協賛集めを頑張り、それからだんだん協賛が戻ってきたんです。

若手リーダー
ゆふいんまつり実行委員会実行委員長
大谷隆広 さん

大谷　うちも全く一緒。ゆふいん盆地花火も商工会がお金を集めていたけど、ちょうど同じころに集まらなくなった。その時、「盆に供養の花火を上げる」というアイデアが出て、個人からもお金を出してもらって、ゆふいんラヂオで同じ時間帯に特別番組を流して供養のメッセージと一緒に天に打ち上げるというふうに切り替えたんです。

地震起きてまちおこし

渡辺　やめるか続けるかという話になった時、結果として「続けよう」という方が強くなった、その力はなんでしょう。

平岡　ピンチになったから、みんなで力を合わせようと一体感が出たんじゃないでしょうか。

大谷　ピンチをどうチャンスにするか。由布院は全部そうやってきました。大分県中部地震が起きて、まちおこしも始めたし。

古長　庄内神楽は今、ピンチです。もともと地元の人が地元の神社を守るというのが神楽の起源ですが、「いろんな人が神楽座に入れるようにしていこう」という機運が高まっています。今は地元外の「やりたい」という子どもを受け入れていませんが、その枠組みをどこかで外さないと守りたいものも守れなくなってしまう。

渡辺　在り方を大切にするのか、人が要るのか。

古長　今日は神楽の衣装と面を持ってきました。ちょっと試着してみてください。

村田　（試着して）重たいですね。

古長　実際は衣装を着て動くので、終わった後は汗だくです。

アドバイザー
大分ベンチャーキャピタル
サブマネージャー
目原瞬 さん

目原　同じ由布市の中でも、庄内神楽について他の町の人は詳しく知らないところがあるようです。そこら辺が今後のチャンスにつながるのかなと思います。

平岡　他の町の祭りを手伝いにいくとか、もっと一緒にやれたらいい。知っている人がいると行きやすいですが。

大谷　橋渡し役がいないとなかなかできないですよね。

村田　集客のためにいろんなゲストに来てもらうときも、最初はあまりかしこまった話にならない方がやりやすいんじゃないかと思います。最終的にはお金が発生するけど、ビジネスじゃなくて、人と人がつながるような。人として応援したいと思ってもらえるようになればいい。うちのジャムも、顔が見えるところで農家さんと付き合っています。会社をやっていると「人、物、金」といわれるけど、絶対的に順序があって「人」が先なんです。

渡辺　出会って、関係をつくって。

大谷　村田君のいうのは湯布院方式なんですよ。映画祭でもゲストはみんなそうやって呼んでいます。知っている人のつてで、「足代と、おいしいご飯を用意するから来てくれないか」と声を掛け、来てくれる人を大事にしていくと、そこから広がって違うゲストも来てくれるようになります。

平岡　声を掛けて引っ張ってくるというやり方は難しい。例えば挾間で、あるグループに「この祭りに来てくれませんか」と声を掛けてもなかなか乗ってきません。それが庄内、湯布院となったらなおさら難しい。でも知っている人がいれば、つてで来てくれるでしょう。一つにまとまることができるような土台があればいいけど。

自分から動くしかない

渡辺　間に入ってつなげてくれるものはなんでしょう。

大谷　村田君のいうように人と人のコネクションでしょう。もっといえば行政のパイプ役とか。

村田　逆説的だけど、「そういうところがあればいい」という期待をしすぎないことだと思います。なかったら自分で動くしかない。由布院の祭りは実際そうですよね。人は背水の陣じゃないと動かない。補助金や予算の話もそうだけど、外に期待するより自分でやるということです。それこそ情報発信は今、SNSでそれぞれできるから。

渡辺　意外と自分でできることがあるということですね。

村田　地域というとき、内々に閉じこもって考えるのではなく、頭の中の枠を取っ払ってやっていったら無限だと思います。

渡辺　庄内、湯布院、挾間の枠もいったん取っ払うと。

大谷　もともと枠なんてないですよ。そんなのは行政がつくってる。

平岡　よく色分けを言われますよね。「挾間はベッドタウン」とか。挾間の中でも農業をやっている人はいるし観光をやっている人もいる。３町の枠組みでくくらないでほしいなと思います。

村田　画一的に見てもしょうがない。いろんなところでいろんなことをすればいいと思います。

笑えるようにして発信

古長　庄内の平石自治区は去年と今年、鳥獣害川柳を募集しました。「困っている現状をみんなで笑えるようにして発信できたらいいね」と考えて、農業新聞にも取り上げられ、今年は全国から二百数点が集まりました。優秀者には、特産品の宣伝も兼ねて梨を贈りました。

大谷　僕たちは83歳以上の水彩画公募展をやっています。由布院駅のホールで出展者を呼んでフォーラムも開きました。どんなことでも一生懸命やれば響くのかなと思います。

村田　うちはジャムを作っていて、首都圏や大阪にも出荷しています。湯布院でもお土産として置いてもらっているけど、地産地消というと難しいところがあって、生産者がこちらの商品作りに賛同してくれないといけない。そういうのができればいいなと思うけど、なかなか成り立ちません。

目原　やっぱり販路から考えるのが一番大事だと思います。できたものを生かすしかない。

村田　うちの商品に限らず、湯布院の旅館とかで「こういうのがあればいいよね」という声が挙がって、それが地元の物と結び付くと、本当の地産地消になるなと思います。

互いを知ることが一番

コーディネーター
大分合同新聞記者
渡辺美加

渡辺　ここからキーワードを考えましょう。

古長　地域力って、いろいろあっていいと思います。いいものをつくろうという思いは一つでも、やり方はいろいろあっていい。そこのやり方で、そこに住んでいる人たちがいいと思えればそれでいいんじゃないかと思うんです。

大谷　逆に、いろいろないと駄目だよね。

古長　行政はつい「市で一つのものを」という感じになる。でも最近は市役所の中でも、「挾間、庄内、湯布院という割り振りをもうやめない？」という議論をしています。挾間にも庄内にも湯布院にもいろんな地域があります。そういったものを点で結ぶ政策の方が分かりやすいんじゃないか。全体でひとくくりじゃなく、点在するものをつまみ上げ、そこに応じたやり方でやっていくのもいいんじゃないかと。

大谷　僕が嫌なのが、由布市のポスターというと由布岳があって庄内神楽があって由布川峡谷があってというパターン。「何で平等に３分割しないといけないの？」と思います。

平岡　今、10歳の小学生は由布市生まれ。いずれ世代が変わればそういうのもなくなるでしょう。

目原　やっぱりお互いを知るのが一番大事だと思います。こうやって今日、違う地域の人が会って話すことで、お互いの悩みもいいところも再発見できたのではないでしょうか。祭りの実行委員会も違うし商工会も違うので、お互いを知るところから始めましょう。

古長　由布市の魅力は三つじゃない。発見されていないものはもっといっぱいあります。

大谷　何かあると「一つに」と言われるけど、由布市って一つでも三つでもないんですよね。

日本で唯一 世界のトップ選手たちが繰り広げる本物のロードレース!

ジャパンカップはアジアにおける最大レースの1つであり、ツール・ド・フランスやジロ・デ・イタリアといった、世界の第一線で活躍する選手たちの真剣勝負を間近で見られる日本で唯一の大会です。現在ワンデイ・レースとしてはアジアで唯一、国際自転車競技連合（UCI）の最上位カテゴリーのオークラス（Hors Class = 超級）のレースとなっています。

また、前日に行われる「クリテリウム」では中心市街地をトップ選手たちが駆け抜ける一味違ったロードレースの魅力を味わうことができます。ジャパンカップは、日本のロードレースファンにとって年に一度のお祭りです。

2015 JAPAN CUP CRITERIUM
2015ジャパンカップクリテリウム 10.17(SAT) 宇都宮市大通り周回コース

2015 JAPAN CUP CYCLE ROAD RACE
2015ジャパンカップサイクルロードレース 10.18(SUN) 宇都宮市森林公園周回コース

TEAM PRESENTATION
チームプレゼンテーション
10.16(FRI) 18:30(予定)
オリオンスクエア（宇都宮市中心市街地）

UTSUNOMIYA CYCLO CROSS SERIES

10.10(SAT) ●エキシビション 宇都宮城址公園特設コース	10.11(SUN) ●第1戦 宇都宮城址公園ステージ
12.13(SUN) ●第2戦 みずほの自然の森公園ステージ	1.17(SUN) ●第3戦 道の駅ろまんちっく村ステージ

2015ジャパンカップオフィシャルグッズ発売中!
ジャパンカップオフィシャルグッズをネットショッピングでご購入いただけます。WEBでしか買えない限定色も販売中。
大会前にグッズを揃えて、ジャパンカップを観戦しに行こう!
サイトはコチラ http://www.japancup.gr.jp/

主催:宇都宮市　主管:（公財）日本自転車競技連盟、ジャパンカップサイクルロードレース実行委員会、NPO法人ジャパンカップサイクルロードレース協会　公認:UCI（国際自転車競技連合）